

FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP RACE REPORT

Rd.1	OKAYAMA	>>>>>>>>>>	MAY 24-25
Rd.2	FUJI SPEEDWAY	>>>>>>>>>>	JUN 28-29
Rd.3	SUZUKA CIRCUIT	>>>>>>>>>>	JUL 12-13
Rd.4	Sportsland SUGO	>>>>>>>>>>	AUG 30-31
Rd.5	FUJI SPEEDWAY	>>>>>>>>>>	SEP 26-27
Rd.6	SUZUKA CIRCUIT	>>>>>>>>>>	NOV 22-23

FULL SPEEDWAY

**TOM'S**

Rd.5

9.26[fri] - 27[sat]

[place] 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

[weather] fri 晴れ sat 曇り

[spectators] 26,700人 (fri 7,600人 sat 19,100人)

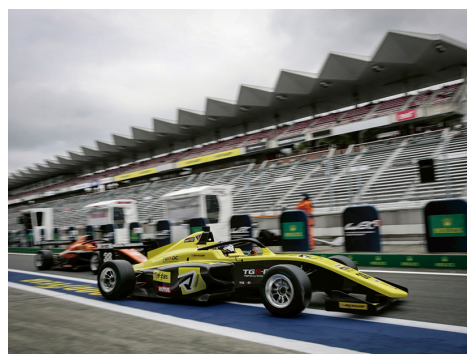
※FIA世界耐久選手権 第7戦 富士6時間耐久レースの動員数としての発表。

WECと併催のRd.5は 梅垣清が2連勝。 王座争いは鈴木斗輝哉との 一騎打ちに。

QUALIFYING

2025年のFORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP Round5はFIA世界耐久選手権(WEC)と併催された。26日(金)は、路面温度が50℃に迫る暑さのなか、2度のフリー走行が行われた。ところが27日(土)になると一転して曇り空となり、路面温度も低くなったなかで公式予選が始まった。Race11へ向けた予選では、#38 鈴木斗輝哉がライバルに0.2秒近い差をつけて、4レース連続でポールポジションを獲得。#37 梅垣清が2番手に続いた。続くRace12へ向けた予選でも鈴木が一時トップに立ったが、終盤に梅垣が0.083秒差で逆転し、Race7鈴鹿以来となるポールポジションを獲得した。

●天候:曇り ●気温:21℃ ●路面温度:27℃



RACE

Race11決勝(15周)は、ポールポジションの鈴木が序盤からレースをリード。レース終盤には梅垣に1秒以内に迫られるも、順位は変わらず鈴木がトップチェッカーを受けた。しかし、鈴木には複数回の走路外走行があったとして、5秒加算のペナルティが科された。これにより梅垣が優勝となった。Race12決勝(15周)では、梅垣が先行し鈴木が追いかける展開。鈴木は7周目にファステストラップを記録し、逆転を狙ったが8周目の100Rでスピン。3位でのゴールとなった。梅垣は最後まで安定した走りでも2連勝。11月の最終大会Round6鈴鹿で梅垣、鈴木による一騎打ちのチャンピオン争いはいよいよ決着を迎える。

Race 11 ●天候:晴れ時々曇り ●気温:24℃ ●路面温度:38℃

Race 12 ●天候:晴れ時々曇り ●気温:22℃ ●路面温度:29℃



37

TOM'S TGR-DC FR

KIYOSHI UMEGAKI

Driver 梅垣 清

Race 11

予選 2位 決勝 1位

Race 12

予選 1位 決勝 1位

	Race 11	Race 12
	QF1ベストタイム	QF2ベストタイム
予選	P2/1'37.497	P1/1'36.470
決勝 ベストタイム	P1/1'37.372 Fastest Lap	P1/1'37.180

38

TOM'S TGR-DC FR

TOKIYA SUZUKI

Driver 鈴木 斗輝哉

Race 11

予選 1位 決勝 2位

Race 12

予選 2位 決勝 3位

	Race 11	Race 12
	QF1ベストタイム	QF2ベストタイム
予選	P1/1'37.316	P2/1'36.553
決勝 ベストタイム	P2/1'37.466	P3/1'37.136 Fastest Lap

TOM'S

1レース目は予選も1位を獲られてしまいましたし、レースでもトップチェッカーでの優勝ではないので、次戦に向けて課題を改善して、すべてでトップを獲れるように臨みたいです。2レース目に関しては、ペースも悪くなかったですし、自分の走りに集中して、後ろを気にせず走れたことは良かったと思います。ポイントはリードしていますが、もちろん気を抜くことはできません。他のライバルもペースを上げてくると思うので、まずは自分の課題を克服して、すべて勝って終われるようにしたいです。



Race11の予選からRace12の予選にかけてタイムが大きく短縮されました。自分としては両方とも良い感覚でアタックできましたが、Race12ではポールポジションにわずかに届きませんでした。決勝レースに関しては、せっかくな位置からスタートできているのに、自分のミスが続いて優勝を逃しました。次戦まで期間が空いているので、その間にできる準備をしてレースに臨みたいです。



梅垣選手は、安定した集中力を持続させながら走っていた印象です。特に2レース目は頑張って良い走りをしていました。鈴木選手については、1レース目は複数回の走路外走行でペナルティとなりましたし、2レース目はスピンを喫して3位に終わり、チャンピオン争いにおいて大事なレースを落とすことになりました。速さは持っているドライバーなので、スタートの安定性も含めて他の要素が底上げされればと思います。

**PONOS****マツキヨ****GR TOYOTA GAZOO Racing****TGR-DC**
TGR Driver Challenge Program**DUNLOP****MOTUL**